

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 品質偽装と日本社会

私たちの社会は生産活動と消費で生まれる富みと税によって成り立っています。生産物の価値を正しく評価・認識するためには偽りのない品質性能が開示されていることが大前提であり、消費者はその情報をもとに価値に対する対価を支払い、その過程で生産者と消費者が税を納めるサイクルにより社会が維持されているのです。そのような信頼関係を毀損させる行為は社会全体に対する重大な裏切りとなります。

大手鉄鋼メーカーであり、名門企業と言われても誰もケチをつけないであろう神戸製鋼所が製品の強度を改ざんしたり、検査しているはずの製品を未検査のまま出荷していた、などの不正行為を行っていたと報じられ大きなニュースになっています。

食品の賞味期限をごまかしたり、外国産を国産と偽装したり、或いは排ガスや燃費の虚偽データを申告・提示していたりと、とても外国製品の悪口など言えたものではない日本人の墮落ぶりが目に余ります。

一握りの社員の怠慢が会社に大穴をあけるところか、これまで築き上げてきた「日本製品ブランド」を地に落としてしまいました。私たちにはこのような事態を防ぐことが出来ないのでしょうか。

このような時、昨今の日本人のモラルの低下を嘆く意見がよく出されます。私には現代人の倫理観の衰退というより「仕事に対する情熱」の欠如に見えて仕方がありません。

まず経営者が襟を正し「仕事への情熱」を社員に示すことが必要である、と考えています。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

 松本 隆一郎